

○ 11月28日(木)

## 小中学校スクールミーティング(宇治黄檗学園)

---



### ○ 畑 委員長

小中一貫教育の二年目。大変前向きな取組を進めておられる宇治黄檗学園を訪問しました。書類の上では拝見していたつもりですが、やはり現場に足を運ぶ事の大切さを、今回も強く実感しました。宇治黄檗学園の名の下に、既存の宇治小学校と新設の黄檗中学校が、完全に新設された未来志向の校舎を共有して、小中一貫教育を実践しておられます。全てが新鮮でしたが、立派な校舎の印象に魅力をゆだねる事無く、地域社会や保護者の方々も一体となって教職員とともに挑戦を続けられている様子に安心しました。何よりも子どもたちが元気でした。

宇治市では、全市をあげて小中一貫教育に取り組んでおられます。校舎が新設一体となった宇治黄檗学園だけのテーマではなく、全市10の中学ブロックを施設一体型と分離型として対応しながら、小中一貫教育を大命題として共有してこられました。10年以上の時間をかけて研究開発された取組に敬服し、今後注目してまいりたいと思います。教育委員会の活力が期待される昨今、宇治市委員会のご活躍に期待いたします。

○ 11月28日(木)

## 小中学校スクールミーティング(宇治黄檗学園)

---



### ○ 安藤 委員

9年間の学びを通じた小中一貫校「宇治黄檗学園」を拝見いたしました。

近代的な施設・設備は小中一貫校に相応したもので、中でも調べ学習にも活用されているメディアセンター(PCシステムのある図書室)や、提出物のチェックや進路指導なども行える教師ステーションがあり、教職員と生徒が常に近い場所に関われる機能的で開放感ある「学びの空間」はとても新鮮に映りました。

学校に到着後すぐに、大縄大会に向けての異学年の取組を見せていただきましたが、児童生徒同士が、同一校舎内で様々な学年の取組を見たり関わったりすることで、低学年では自分たちの少し先の姿をイメージできたり、上級生は「周囲から頼られている」、「認められている」という誇りや自信が持てるなど、日常的に学年を越えた「取り組みの良さ」を感じることができました。上級生を慕う低学年の表情はなんとも微笑ましく、それぞれに一生懸命取り組む姿が印象的でした。

また、教職員間では小中学校が直面している学習や生徒指導の課題を共有し、互いの取り組みから刺激を受けながら個々の授業力向上へと役立てるといった、学年・校種を越えた「強み」も懇談の中から伺えました。9年間の全教育活動が機能する施設一体型の特徴が見ることができました。

この学校では、ユニバーサルデザインの視点を取り入れながら「どの子もわかる授業」を目指し、日々研究活動や授業改善に懸命に努力されています。学園開校を機に、指導計画や教材研究など、学校運営において苦勞の耐えない毎日の中で子どもたちと向き合っておられます。緩やかな接続には欠かせない一人一人を大切にされたきめ細かい学習支援や生徒指導、また地域の特性を活かした「宇治学での学び」など、子どもたちの個性や能力を引き伸ばしてくれる工夫は本当に心強いと感じました。

宇治黄檗学園には、地域に支えられてきた古い伝統があり、地域と密着した「行事」や、「学習支援ボランティア」などへの支援もたくさんあります。地域の人々や保護者の方々が集う交流ホールの活用の例もあるようなので、今後は協働で校内の清掃活動や課外活動を行うなど、地域の特色を活かした多様な活動を取り入れながら、地域の核となり学校を活性化して欲しいと願っています。